

板橋区の資金管理及び運用状況

区では、「板橋区資金運用方針」に基づき、会計管理者が管理する資金について、元本の安全性を最重視するとともに、流動性の確保と効率性の追求を図りながら管理・運用に取り組んでいます。

1 歳計現金等

歳計現金等とは、区の歳入歳出に属する現金のことで、日々の支払いに準備している現金（歳計現金）と、区の歳入歳出に属さない現金で法令等に基づき区の責任において一時的に受払いをする現金（歳計外現金）をいいます。

<管理・運用方法>

歳計現金等の管理・運用は、指定金融機関その他の確実な金融機関への預金での保管を基本としており、資金収支の予定を作成することで、受払い状況に支障をきたさぬよう細心の注意を払っています。

<運用実績の概要>

- (1) 資金収支を精査し、コロナ禍による影響を考慮したうえで譲渡性預金にて運用しました。
- (2) 令和3年度の実績は、前年度と比較すると、特別定額給付金事業の終了による影響から歳計現金等の平均残高は減少したものの、譲渡性預金を用いた効率的な運用により、平均利回りは微増となりました。

単位：千円

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
平均残高	12,433,000	19,579,000	13,036,000
運用収入	329	426	694
平均利回り	0.003%	0.002%	0.005%

2 基金

地方公共団体が特定の目的のために、財産を維持し、資金を積立て、または定額の資金を運用するために設けた財産で、将来の特定事業への負担に備えるための資金です。一般家庭で言えば貯金にあたるものです。

<運用方法>

基金は、運用目的及び積立て・取崩し計画を勘案したうえで、金融機関への定期預金や債券の購入等により運用を行っております。

<運用実績の概要>

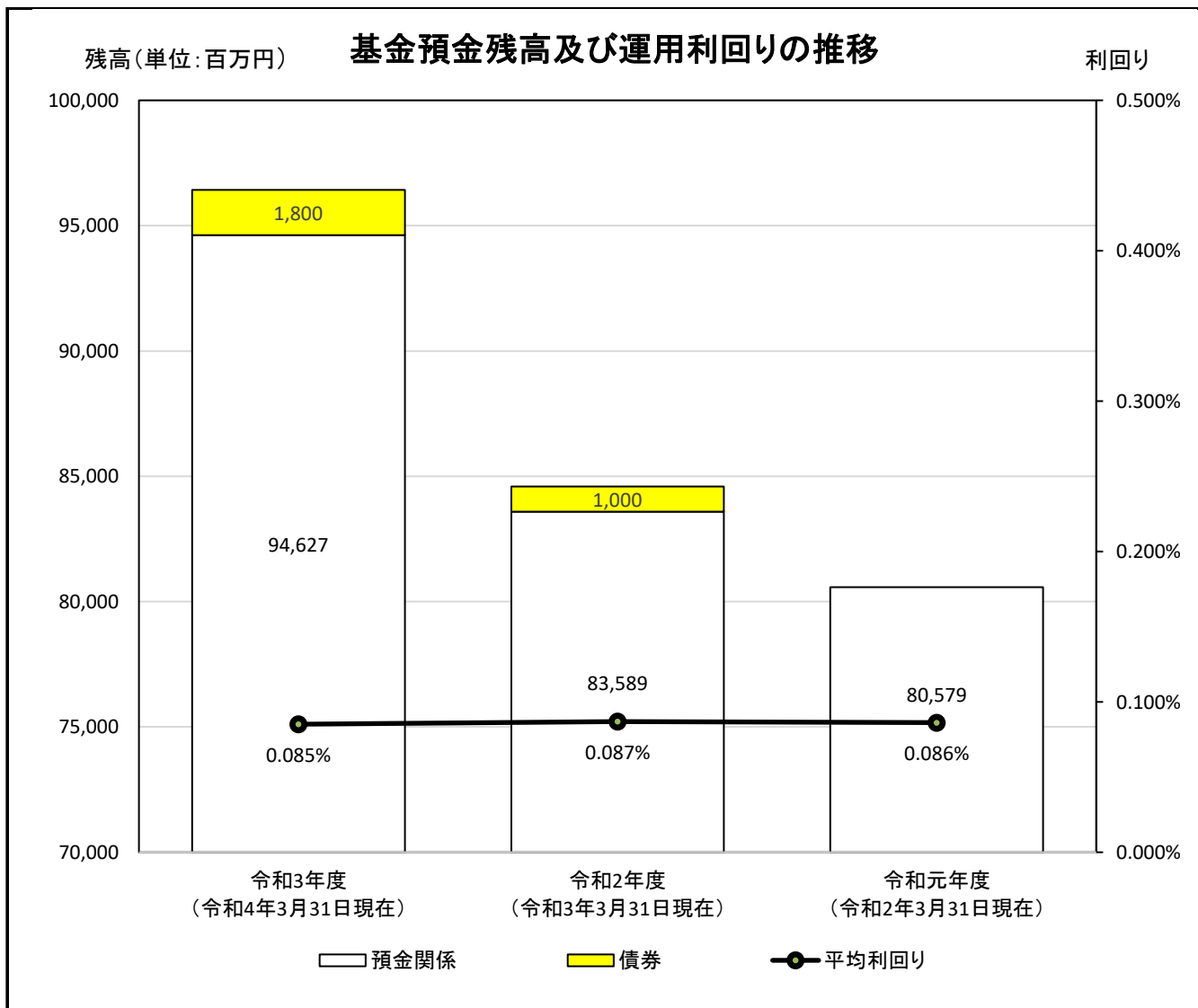
(1) 基金の運用状況

令和3年度は、安全性を確保しつつ比較的利回りの高い定期預金を中心に運用を行いました。基金の増加に伴い、運用収入は微増したものの、定期預金の金利低下から、平均利回りは微減となりました。また、前年度より債券（地方債、財投機関債）での運用を行っています。

単位：百万円

区 分	令和3年度			令和2年度			令和元年度		
	R4.3.31 現在高	運用 収入	平均 利回り	R3.3.31 現在高	運用 収入	平均 利回り	R2.3.31 現在高	運用 収入	平均 利回り
預金関係	94,627	70	0.085%	83,589	69	0.087%	80,579	59	0.086%
債 券	1,800	2		1,000	1		0	0	
計	96,427	72		84,589	70		80,579	59	

*平均利回りは、当該年度の運用収入を前年度末日の現在高で除した数値で算出しています。



(2) 金融機関種別の運用内訳

金融機関の選定では、引き合いを実施し、金利はもとより、格付け会社の評価や区への貢献度等を総合的に判断し決定をしています。また、前年度より元本の安全性や収入の確保を図るために債券（地方債、財投機関債）での運用を行っています。

単位：百万円

区 分	令和3年度 (令和4年3月31日現在)		令和2年度 (令和3年3月31日現在)		令和元年度 (令和2年3月31日現在)	
	運用額	割合	運用額	割合	運用額	割合
都市銀行	14,627	15.2%	6,589	7.8%	5,579	6.9%
地銀・信金等	80,000	83.0%	77,000	91.0%	75,000	93.1%
債券	1,800	1.9%	1,000	1.2%	0	0.0%
計	96,427	100.0%	84,589	100.0%	80,579	100.0%

*割合は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

